

会議名称	第 20 回国際委員会
日時	2024 年 2 月 20 日(木) 10:00-11:15
場所	Web 会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	(1) 開会 (2) 技術分科会における成果報告 -① スケーラビリティ WG -② 自律性 WG (3) 国際カンファレンス開催結果報告 (4) 事務連絡 (5) 閉会
参加者数	約 70 名

以下、議事要旨（敬称略）

(1) 開会 中尾彰宏国際委員会委員長よりご挨拶

web での視聴も含めて、国際カンファレンスへご参加いただき感謝する。昨年 12 月に標準化が開始され、国際連携の重要性が明確になった。日本にいながら他国との情報共有ができることに各個人が価値を感じて、今後の戦略立案や連携方法の参考にさせていただきたい。

国際委員会の配下にある技術 WG の中で、本日は NTN を中心に検討を行うスケーラビリティ WG と、AI について検討を進める自律性 WG に活動内容を報告いただく。AI は技術面だけでなく、倫理面でも国際的な協調が必要だといわれている。このように、国際的な連携が必要といわれる技術の動向を俯瞰して情報共有を行っていただくことを国際委員会の目的としている。

国際カンファレンスについても後ほど詳しくご報告いただく。

(2) -① スケーラビリティ WG

- 豊嶋WG長から 2023 年度スケーラビリティ WG の活動報告をいただいた。
- 発表の後、以下の質問があった。
 - ・ ここ 1、2 年で NTN の需要が高まっているが、意見交換の際に、売り上げ増加など目に見える成果について意見はあがったか。(コンソーシアム会員)
 - NTN 利用における定量的な効果は議題になっていないため回答が難しい。(豊嶋)
 - ・ 課題整理の表から、今後やるべきことが多々あると理解したが、課題解決に向けて具体的にどのように進める予定か。(小西)
 - 課題がまだ多くあることに気づいたのが実情である。その中でも重要な課題は整理できており、課題解決に向けて企業へご相談するなどの具体的なアクションを来年度に進められればと考えている。(豊嶋)

- ・ 今回この委員会に参加できなかった方にも見ていただけるように、ご尽力いただいた活動の成果を報告書で周知いただきたい。(中尾)
 - 報告書は日本語と英語で執筆中である。WG に参加する企業が熱心に取り組んでいただいたおかげで得られた成果は、報告書で共有する。(豊嶋)

(2) -② 自律性 WG

- 岩田秀行WG長と楽天モバイルの Leon Wong 様から 2023 年度の自律性 WG 活動報告をいただいた。

(3) 国際カンファレンス開催結果報告

- 総務省国際戦略局国際戦略課長 井幡晃三様から、2024 年 2 月 1 日 (木) にあった Beyond 5G 国際カンファレンスの開催結果について報告をいただいた。

(4) 事務連絡

- 事務局から、今後の国際委員会の開催予定について紹介を行った。
- ・ 次回日程：3 月 25 日 (月)
- ・ テーマ：
 - 技術分科会の FY2023 活動成果 (第 2 弾)
 - MWC 出展報告
 - 諸外国における 6G の推進状況等にかかる定点観測報告 最終 (欧・米・アジアの概観)

(5) 閉会 中尾彰宏国際委員会委員長よりご挨拶

参加いただいた皆様、発表いただいた皆様のご協力に感謝する。

標準化も始まり、5G/B5G 普及にあたってはネットワーク全体での進化という観点で考える必要がある。B5G は国際連携が非常に重要であり、今後も活発化させていかなければならない。

残りの WG 活動報告も含めて、引き続き国際委員会を通して情報を得ていただきたい。

以上